

新文化 「光和コンピューター セルフレジ販売へ」

2020年(令和2年)3月26日

光和コンピューター

セルフレジ販売へ

価格170万円、雑貨・文具にも対応

光和コンピューターはこのほど、セルフレジを開発し、6月をめどに販売を開始する。人手が足りない
と悩む書店経営者の要請に応える。セルフレジはJANコードが付いた本、雑貨・文具など、すべてに
対応するもの。他のメーカーで開発された既存のセルフレジの価格は300万円程度だが、同社では約17
0万円という廉価で販売する予定だ。

光和コンピューターが
販売するセルフレジのハ
ードウェアはどのメーカ
ーにも対応している。釣
銭機はグローリー製の
「釣り銭機」を標準仕様

にした。同社が標準P
Sとして販売しているP
OSシステムのモードを
切り替えると、書店来店
者が決済できるように改
良した。

客はJANコードが付
与されている商品であれ
ば、本以外のアイテムも
同社のKIPPOSで精算
できる。クレジットカー
ドをはじめ、QRコード
を用いた各種Pay系
suica、WAON、
nanacoなどのFe
lica系の決済にも対
応するという。
書店にはKIPPOS、

釣銭機を一体収納できる
什器とセットで販売す
る。その大きさは幅約80
センチ、高さ約1・3メートル。
同社では5月から、書
店でテストを行った後、
販売を開始する予定。販
売目標について、同社の
多田元晴取締役は「まず
は30台、年間で100台
を目指したい」と話す。

例えば、100坪の売
場をもつ書店であれば1
台、300坪の書店には
2台の導入を提案してい
く。

同社には、書店経営者
から「社員が減り、アルバ
イトの手配がつかない」

という理由から、セルフ
レジを開発してほしいと
いう声が複数寄せられて
いた。

セルフレジを導入する
ことにより、書店の人件
費削減に寄与していく。
書店は導入後、セルフレ
ジの操作に不慣れな客を
サポートする書店員が必
要であるが、客が慣れて
くれば、「無人」で運用
できるとみている。今後、
通常のレジ台と合わせて
運用する書店が増えそ
うだ。

ブックカバーについて
は、客自身で付けられる
よう、セルフレジの近く
に置いて、自由に持ち帰
ってもらうことを想定し
ている。

また、7月から有料化
が義務付けられるレジ袋
もセルフレジ周辺に置
き、精算できるようにオ
ペレーションを提案す
る。